

あなたの地域でも自主防災組織を立ち上げてみましょう。

自主防災組織Q&A

Q1 自主防災組織ってなに？

A1 自主防災組織とは、町内会などが母体となって、地域の防災活動を自主的に行っているグループです。



▲簡易担架を使った訓練

Q2 なぜ自主防災組織が必要なの？

A2 大規模な災害が発生した場合

自主防災組織を立ち上げて

津山市の自主防災組織は現在71団体(124町内会)あります。その中から、今年4月に自主防災組織を立ち上げ、活動している中須賀町内会自主防災会会長の押目靖雄さんにお話を伺いました。



▲会長の押目靖雄さん

度重なる水害と高齢化がきっかけ

中須賀地区は吉井川と久米川が合流する地点にあり、これまで何度も水害に見舞われました。町内の人たちが高齢化してきていることもあり、台風が来た時の避難や火事の消火などに対応できるよう、普段から取り組むことが必要と以前から感じていました。そこで昨年5月に町内会で自主防災組織の設立を決め、市危機管理室による説明会で組織づくりの手順や事業計画の立て方などを学び、今年4月に中須賀町内会自主防災会を立ち上げました。

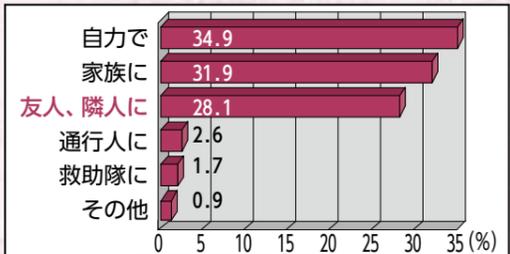
避難ルートを歩いてみる

最初の活動では、子どもからお年寄りまでの約60人で、集中豪雨

合、消防などの防災機関だけでは救助が行き届かない可能性がります。住民一人ひとりがバラバラに行動しては、かえって危険な場合もあります。このような場合、住民が地域ぐるみで協力して統率のとれた行動をとることが重要です。

また、地域によっては高齢者や障害者、子どもなど、災害時に自分の身を守るのが難しい人が多くいるところもあります。こうした人々を災害から守るためには、地域一丸となって支える体制づくりが必要です。阪神淡路大震災では左図のように、救出された人たちの多くが、救助隊ではなく近所の人びとにより救出されたという報告

図 阪神淡路大震災における生き埋めや閉じこめられた際の救助状況



(出典) 日本火災学会：1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書

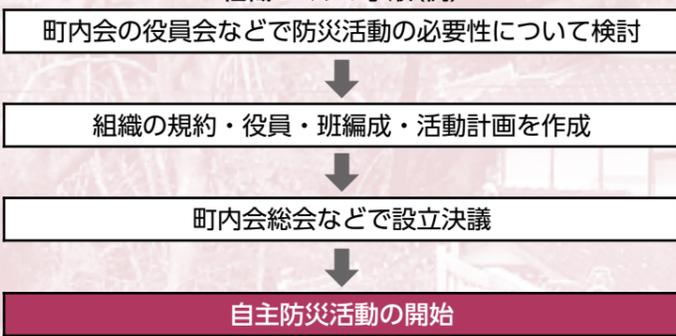
があり、自主的な住民組織の有効性が改めて認識されました。

Q3 自主防災組織を作るにはどうしたらいいの？

A3 自主防災組織は、町内会などを母体に設立するのが一般的です。

また、地域の実情に応じて近隣の町内会と協力して組織する方法もあります。

組織づくりの手順(例)



詳しくは、危機管理室にお問い合わせください。

台風や土砂災害 — 地域で備えよう

中心付近の最大風速が毎秒17m以上になった熱帯低気圧を「台風」と呼びます。台風により風雨が強くなる前に、日頃から家の外周りの補修や整理、避難できる体制づくりなど家庭や地域で十分な対策を立てておきましょう。

また平成22年には、土砂災害が全国で1128件発生しました。市内にも約580カ所の土砂災害危険箇所があります。危険箇所を確認して、土砂災害の前兆や異変を感じたら早めの避難を心掛けましょう。

自主防災組織についてのご相談は 危機管理室(消防防災) ☎22-1190

- 災害の発生や前兆を発見した時は 災害警戒(対策)本部 ☎23-2130
加茂支所市民生活課 ☎32-7032
阿波支所市民生活課 ☎32-7042
勝北支所市民生活課 ☎32-7021
久米支所市民生活課 ☎32-7012
津山圏域消防組合 ☎31-1119

諫早市・出雲市と「災害時相互応援協定」締結



7月29日出雲市で開催された「三市友好交流都市提携30周年記念事業」において、「災害時における相互応援協定」が結ばれました。この協定は三市のいずれかの市で災害が発生した時に人的・物的支援を行うものです。

市は、7月に国土交通省中国地方整備局とも「災害時における情報交換に関する協定」を締結しており、災害発生時に備えた体制づくりを行っています。

避難時の心構え 普段から地域で話し合ひましょう

避難のタイミングを見逃さないで!

- 土砂災害の前兆を発見したとき
○避難勧告や避難指示が出たとき
○雨量が災害の基準に達したとき(1時間に20ミリ以上、降り始めから100ミリ以上)
○高齢者や乳幼児などの避難は早めに



避難のときは急がず落ち着いて!

- 火元の確認。ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とす
○荷物は最小限にする
○移動時は、川のそばなど、危険が多い場所は避ける
○避難場所、避難経路は事前に確認しておく

